

『みんなで考える図書館市民フォーラム』アンケートへの質問に係る回答について

No.	質問事項	回 答
①	ワークショップの日程を、広報まいづるに早めに載せて欲しい。	日程を含む詳細な内容が決まり次第、広報まいづるなどを通じて事前に広報いたします。
②	近くの福知山図書館の状況を知りたい。	●福知山市立図書館（中央館と3つの分館（三和分館、夜久野分館、大江分館）） 中央館の概要及び利用案内等は以下のとおりです。（蔵書数及び貸出冊数は令和3年度データ） 【概要】市民交流プラザふくちやま内1、2階（2014年建設）、延床面積2,482㎡ 【利用案内】開館時間：火曜日～金曜日 午前10時～午後8時 土曜・日曜・祝日 午前10時～午後6時 休館日：月曜日、12月29日～1月4日 【本の貸出】一人10点まで（うち、視聴覚資料は1点のみ）、2週間まで 中央館で借りた本を分館で返却可 【その他】自動貸出機、データベース検索端末、インターネット検索端末、電子図書館（令和4年1月～）、移動図書館など 【所蔵資料数】257,556点（うち、視聴覚資料3,779点） 【貸出冊数】381,013点（うち、視聴覚資料5,564点）
③	「開館時間を9：00～19：00」にし、コンサートや作品展示など行って欲しい。	現在、東・西図書館ともそれぞれ週に1回閉館時間を午後7時まで延長しております。（東図書館は金曜日、西図書館は火曜日） 今後の開館時間の変更や閉館時間の延長については、利用状況をみながら検討いたします。 なお、館内でのコンサート及び作品展示（絵本原画展）につきましては、昨年度、東・西図書館でそれぞれ1回ずつ実施したところであり、今後とも定期的の実施できるような方法等検討していきます。
④	ワークショップでの市民の意見、要望、思いが中央図書館の施設（建物）の設計、配置にどれだけ取り入れられるのか、使いみちだけになるのか、答えて欲しい。	中央図書館の建物の規模や構造、配置などについては、今年度予定しております基本設計を進める中で、一定、市で精査の上、施設の大まかな全体像を決めたいと考えておりますが、中央図書館でのサービスや運営手法、分館に求められるサービスやそのあり方などについては、ワークショップ等で市民の皆様と意見交換する中で決めていきたいと考えております。
⑤	今後のワークショップ等の日程等、市民への広報をきめ細かくお願いしたい。くれぐれも決まったことの報告とらないことを望む。	日程を含む詳細な内容が決まり次第、広報まいづるなどを通じて事前に広報いたします。
⑥	現在のサービスとのすみ分け。 例）産業振興、ハローワーク、農協、医療、企業、赤れんがのコワーケーション施設など。	図書館では、関連する資料の案内・提供、専門窓口や担当職員（氏名まで）の紹介などを行います。そして、市の担当専門部署では、より具体的な相談や市が実施する補助金の申請・受付などを行います。 赤れんがのコワーケーションは主にビジネスに特化した利用がされておりますが、図書館は年齢や職業などは問わず、料金も不要でご利用いただけます。ただし、研修室が行事などで使用できない場合があったり、座席が少なかったり、また現状では、Wi-Fiの使用ができないなど一定の制限があります。しかしながら、その場の図書館資料で調べることができるほか、中央図書館では商用データベースの導入も検討しておりますことから、導入後は最新の情報が無料で入手できるようになるものと考えております。
⑦	舞鶴には子どもが居られる場所が少ないため、素敵な図書館になれば、子ども（学生）が集まる場になると思う。様々な事例があったが、舞鶴の図書館は静寂のある空間か、交流の場をメインとするか、どのようにするのか。	子どもへのサービスについては、これまでどおり重視し、子どもの居場所や様々な活動に活用できる場の提供も検討していきたいと考えております。 中央図書館では、静寂のある場も確保しつつ、交流が出来る場も必要と考えておりますことから、サービスや運営手法などについては、ワークショップなどで意見交換をする中で決めていきたいと考えております。
⑧	次回のワークショップまでに何か決まってしまうと、もう変更できないということはないか。	中央図書館の建物の規模や構造、配置などについては、今年度予定しております基本設計を進める中で、一定、市で精査の上、施設の大まかな全体像を決めたいと考えておりますが、中央図書館でのサービスや運営手法、分館に求められるサービスやそのあり方などについては、ワークショップ等で市民の皆様と意見交換する中で決めていきたいと考えております。
⑨	小中学校児童・生徒への読書支援でタブレットが全児童・生徒に配布されているが、それと連携などしていくのか。（ギガスクールの取り組みとの関係）	児童・生徒への読書支援は非常に重要であることから、小中学校と連携して進めていきたいと考えております。まずは、朝読書等で活用してもらえよう電子図書館の利活用を進めていきます。
⑩	人を派遣したりすることを考えているのか。	学校の教諭等担当者への支援を考えております。すでに、研修会の講師や選書、学校図書館のレイアウト等の支援で学校に出向いており、さらに充実した支援を検討していきたいと考えております。
⑪	府のネットワークとの差別化をいかに図るのか。中央東西図書館の役割の差別化を詳しく説明してほしい。	府立図書館以外のほとんどの図書館は受け入れから6ヶ月の新刊本は借りることができず、商用データベースも借用できないのが現状です。利用者が求めている資料が特定されていないことも多々あり、多くの資料の中から実際に手にとって必要な情報を得ることが重要であるため、ビジネスや医学、法律などの課題解決に関する新鮮な資料は所蔵したいと考えております。しかしながら、すべてを揃えることは不可能であることから、相互貸借により府内の図書館資料を利用したり、学術書や専門書を多く所蔵している府立図書館を活用することで、さらなる課題解決を目指していきます。 中央図書館と各分館の役割につきましては、資料や司書は中央図書館に集約しますが、中央図書館と各分館をネットワークで繋ぎ、分館でも中央図書館の資料の検索や貸し出し、返却、予約受け取り、レファレンスサービスができるように整備したいと考えております。また、分館の資料は、中央図書館から定期的に入れ替えを行い、子どもから高齢者までどの世代にとっても魅力あるものとなるよう整えてまいります。